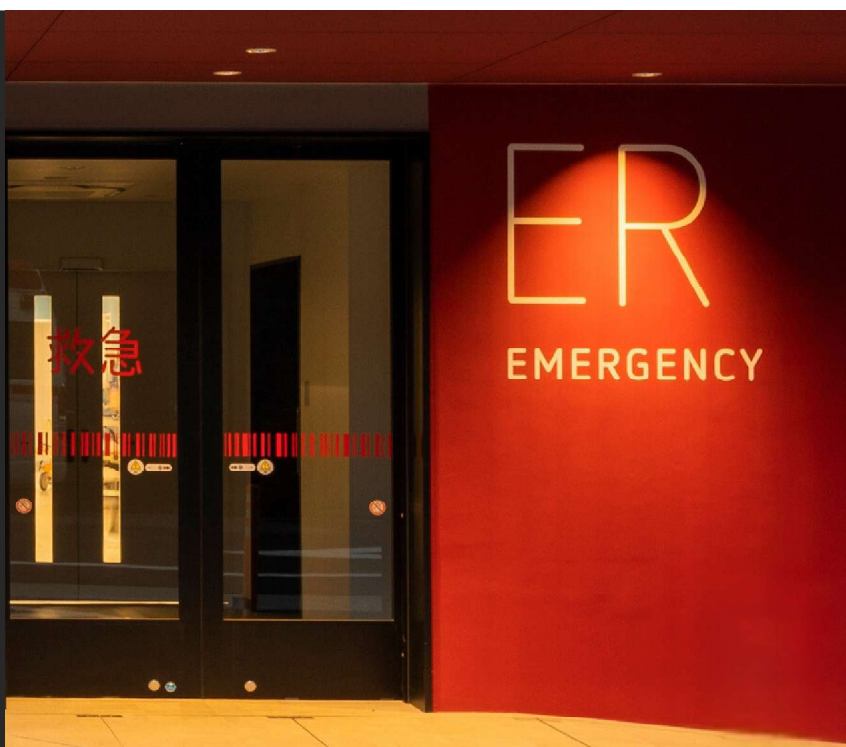


WORLD ER

PR
MAGAZINE

牧田総合病院
広報誌





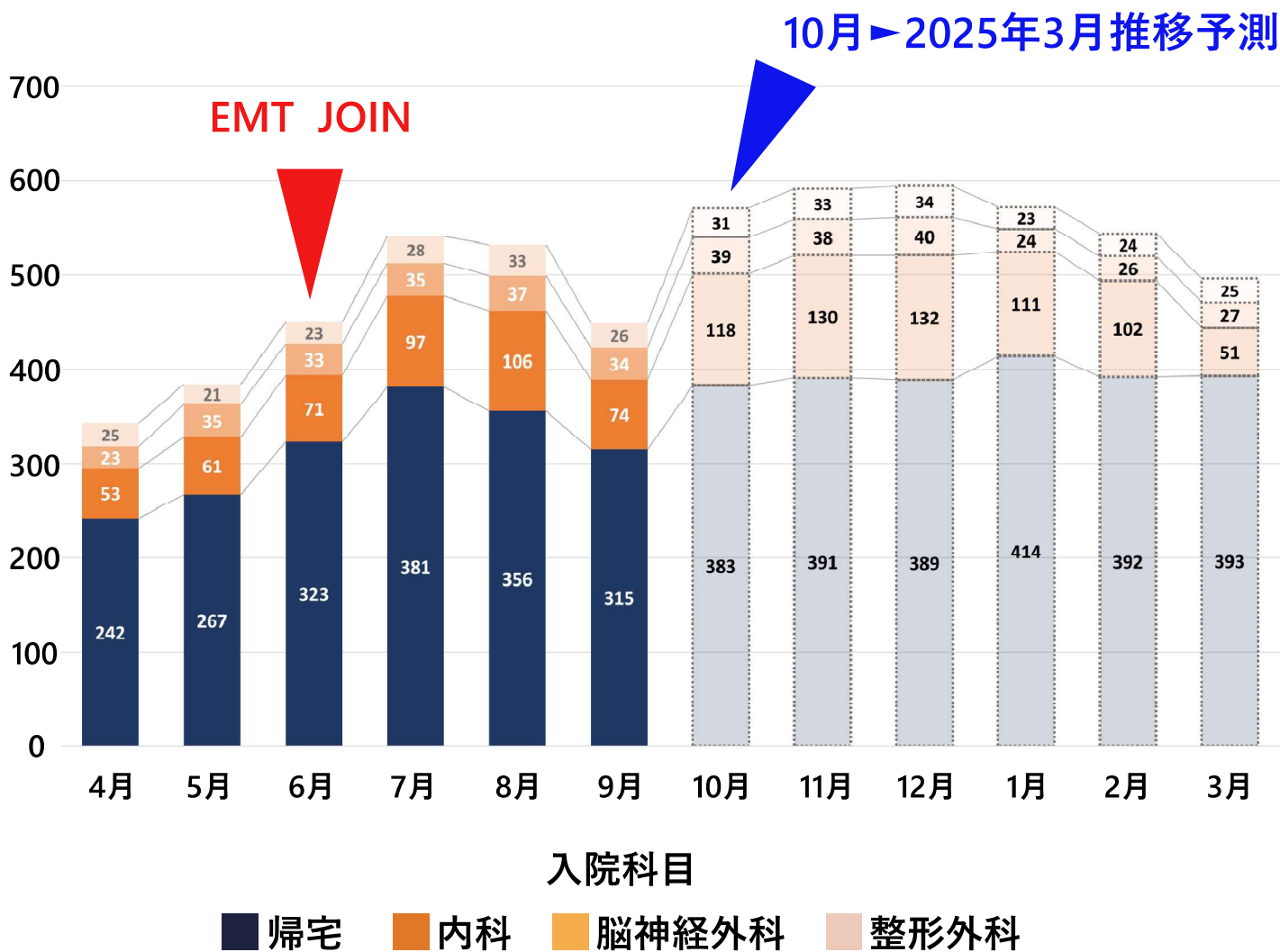
Vol.10 ER

2021年に本院が大森から蒲田へ移転しておりますが、新しい病院は、旧病院とは比べものにならないほど施設が充実しています。特に力をいれているのが24時間対応の救急センターです。2024年6月に救急救命士の部署であるEMT部を立ち上げました。以前は、救急救命士は病院に搬送するまでの間しか救急救命処置ができませんでしたが、2021年に救急救命士法が改定され、患者さんが入院するまでの間、もしくは病院に滞在している間も救急救命処置ができるようになりました。



そこで当院では救急救命士を増員して、現在は5名の常勤と2名の非常勤が勤務しております。初療においての患者さんの対応や、当院は救急車を持っておりますので、救急車をもちいた搬送業務、ホットラインの対応、転院が必要な場合の転院先の確保などの仕事をして、看護師と救急救命士でタスクシェアすることで、救急室での業務を円滑に行うことができ、より多くの患者さんをスムーズに受け入れることができると考えています。

救急車応需と入院件数推移



2024年4月～9月実績と、2024年10月～2025年3月分の将来予測値になります。
6月にEMT部が設立されたことにより、関連部署の負担が軽減され、より多くの患者さんを受け入れられるようになりました。今後も現状分析、課題調査を通して効率性を追求いたします。

Next

Interview

Shu Hiraido

ONE STOP ER

牧田総合病院 病院長 整形外科部長 救急センター長/平出 周

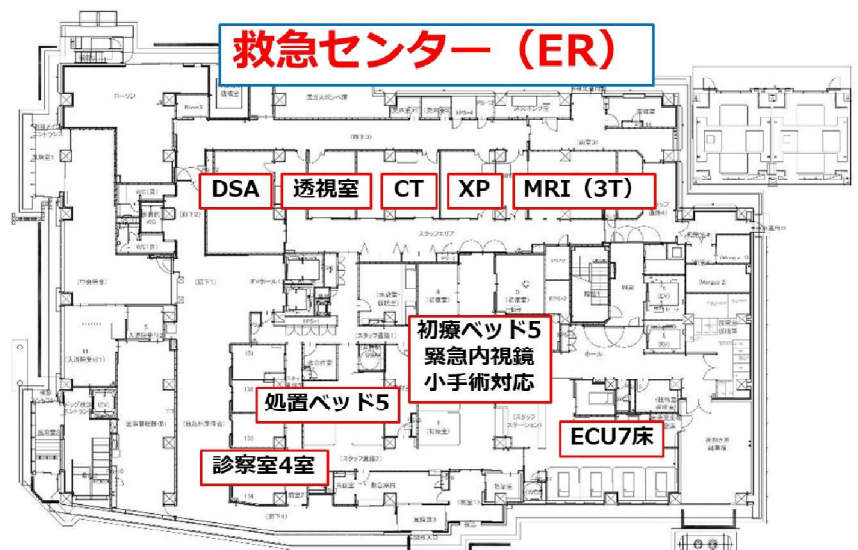


牧田総合病院は、1942年に初代院長の牧田中が^{あたる}大森に「牧田医院」という有床診療所を開院したことに始まり、80年以上の歴史がある病院です。以前より救急医療に力をいれておりましたが、2013年に荒井理事長が就任してからは、その体制をさらに強化し、一時は年間約7000台の救急車を受け入れていました。コロナがあり救急車の受け入れ台数は一時減少していましたが、落ち着いてからは徐々に回復しております。今年は約6000台の受け入れが見込まれ、将来的には年間1万台の受け入れを目指しております。これにより、今後地域へのさらなる貢献ができるものと思われま。コロナにより救急車の受け入れを断らざるを得ない状況も経験しましたが、その中で「断らない救急医療」を維持することの重要性を改めて実感しました。現在、看護師とEMT（救急救命士）が連携して取り組んでおり、常勤の救急医の配置を実施し、当院の法人ビジョンである「断らない救急医療」が実現できていくと思います。

当院の救急センターの特徴は、搬送口からすぐにアクセスできる初療ベッドを5台備えており、そのうち2台は陰圧室で感染症にも対応可能です。さらに、X線、CT、MRI、DSA（血管撮影）の検査室や緊急内視鏡室がウォークスルーでつながっているため、スムーズに検査や治療を行うことができます。ステーションを挟んで初療室の反対側には7床の入院ベッドを備えており、初療を終えた患者さんがそのまま入院できる体制も整えています。

更に手術室は5室あり、すべてクリーン度の高い手術室で、24時間対応しております。さらにHCU（高度治療室）11床、SCU（脳卒中センター）12床を備え、高度な急性期医療に対応しています。また、高気圧酸素治療センターには4台の高気圧酸素治療器があり、脳梗塞、腸閉塞、下肢難治性潰瘍、骨髄炎など様々な疾患に対応することができます。

昨年度、当院の手術件数は予定手術と緊急手術を合わせて3000件を超えております。手術室は5室あるのですが、当初の計画を上回る手術件数となっており、手術が回らない状態となりつつあります。そこで今年12月に、局所麻酔専用の手術室をオープンすることになっており、完成しますとさらに多くの手術患者さんを受け入れることが可能になると見込んでいます。



Momoko Sato Hirovasu Hishinuma

連携された医療体制の構築

牧田総合病院 救急センター 師長/佐藤 桃子 EMT部 課長/菱沼 啓泰

現在、ECUの専従看護師は20名体制で行っています。当院の強みは脳外・整形・内科の医師が当直しており、消化器オンコールと外科オンコールの体制も整っているので、常時緊急内視鏡や緊急オペにも対応できることです。脳外に関しては脳卒中センターもあるので、24時間緊急オペ・血管内治療に対応可能です。

旧病院には救急外来に病床が無かった為、夜間の緊急入院は病棟看護師の負担が大きいものでしたが、新病院から時間外の緊急入院のほとんどが救急センター内のECUに入院して翌日一般病棟に移動するので、夜間の病棟看護師業務を軽減することができました。

今年度からEMT部が発足され、救命士とのタスクシェアをすることにより看護師はECU入院患者の対応など、看護師でしかできない業務に専念できるようになってきました。



昨今の法改正に伴い、救急車内だけでなく病院内でも救急救命処置を行う事が正式に認められました。具体的にはまず患者さんの観察です。バイタル測定はもちろんのこと、主訴から考えられる鑑別をもとに患者状態の評価を行うことも可能です。また、場合によっては特定行為を行う事もできます。CPA時のアドレナリン投与、気管挿管、心肺停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液、低血糖発作のブドウ糖液投与などです。こういった特定行為を含めた研修体制をいかに構築していくかが現在の課題となっています。看護部、診療部協力のもと急ピッチで体制構築を図っているところです。しかし、救急隊所属の救急救命士向けの教育基準は充実している一方、院内救急救命士の教育基準は看護師のように明確なものがないため、各々の所属病院の業態に合わせた教育体制の構築が求められます。既存の講習会を救急隊と同じようにJPTECやICLS、MCLSを受講しステップアップすることもできます。業務内容の構成・教育体制の構築・そのための資料作成など、すべてが手探りですが、黎明期にある今ならではのものと割り切って、スタッフ全員で創ることを楽しんでいきます。



院内では関連部署とのタスクシェア、タスクシフトを進めていきます。厚生労働省調べによれば、医療機関で行われる業務の30～40%は情報管理に費やされているというデータが出ています。これは、8時間労働のうち3時間程度は、情報管理に時間を取られて本来の対患者業務ができない可能性があることを示しています。その全てを請け負う事はできませんが、救急車応需や紹介、転送時の内外情報管理、調整、患者導線の整理といった救急救命士にタスクシフトすることで、ある一定の包括的パターンを形成し、院内業務の効率化を図ることができるのではないかと考えています。特に人数が減る夜間帯は効果を発揮するのではないのでしょうか。業務を分担することで、医師と看護師は診察に専念することが出来る様になります。効率性を追求して、最終的には平出院長からもあったように、年間1万台の救急車受入を目指します。

Makita Specialty

「断らない救急医療と医療連携」

当院では、「断らない救急医療」「断らない医療連携」の方針を掲げて、日々取り組んでおります。救急患者さんの受け入れはもちろん、地域の医療機関からのご紹介も最優先事項と考えております。治療が安定した患者さんに対しては、逆紹介を行うことで、地域の先生方と協力して患者さんへのスムーズな治療ができることと思っております。

今年度は、紹介率が70%、逆紹介率が90%を超えております。当院では国の推進する、かかりつけ医制度に基づいて、地域医療を担うかかりつけ医の先生方からのご紹介や施設の共同利用を進めており、地域医療支援病院の認可取得を目指しております。

当院の強みですが、手術実績の多さと様々な診療科による幅広い診療ができることです。脳神経外科、整形外科、脊椎脊髄センター、消化器外科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、形成外科、眼科といった外科系の手術件数、新患外来患者数が増えてきております。2024年12月より外来手術室がオープンすることで、より多くの患者さんの受け入れが可能になるのではないかと思います。内科系では、循環器内科の不整脈治療、腎臓内科によるシャント増設やPTA（経皮的血管形成術）、消化器センターでの内視鏡検査が増えてきております。当院は、医師同士の風通しのよい病院です。内科系の医師、外科系の医師が互いに協力し、一丸となって医療に取り組んでいます。

今後も、紹介患者さんの受け入れや、安定した患者さんの逆紹介に力を入れ、地域医療に貢献してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

受診依頼



牧田総合病院

- ☎ 03-6428-7510
医療連携室 9:00 - 17:00 (平日のみ)
- ☎ 03-6428-7500
救急センター 土日祝・夜間帯

かかりつけ医



連携



行政救急車が逼迫していて手配できない場合は、ご相談ください。当院救急車がお迎えに伺います。

※現時点では、ご自宅へのお迎えは行っておりません。

症状が安定次第
「逆紹介」いたします。

EMT MISSION

Commitment to the team's success

当院は救急車を保有していますので、今後これをうまく活用する業務も構築していく予定です。EMT部のミッションとして「関連する部門、施設、行政の負担軽減を追求する。」という方針を立てました。これに従って業務構築を行い、地域医療を支援する目的で、転院搬送や紹介元へ迎えに行く様な車両運用は構想として立ち上げています。将来的には24時間維持を求められる在宅医療の支援も出来たら面白いのではないかと考えています。通信機器をうまく活用して、現場と医療を繋ぐようなDXを推進していきたいです。



PLAN 1

関連施設間、紹介元医療機関へ 全時間帯連携を提供

- ・緊急での精査依頼窓口の24H体制で提供
- ・自宅、施設問わず急行型の救急車を提供

PLAN 2

近隣医療機関と関連病院の 在宅医療支援への介入

- ・在宅医療とDX推進、EMTのコラボレーション
- ・夜間支援、低緊急案件の対応支援（必要に応じ搬送）
- ・支援による集患効果を予測、計測



地域を紡ぐ連携セミナー

医療機関の方向け

毎月
開催中

毎月
第2水
18:30-19:00
ZOOMオンライン

診療部による近隣医療機関の皆様に向けた研修会を開催しております！



Next

Vol.11

外来オペ室



〒144-8501 東京都大田区西蒲田 8 丁目 2 0 - 1

TEL (代表) : 03-6428-7500

TEL (医療連携室直通) : 03-6428-7510 FAX (医療連携室直通) : 03-6428-7511

月曜日～金曜日 9:00～17:00 (土・日・祝日を除く)

※外来診療表はQRコードからご確認頂けます

